

長野県須坂市で集合！

「自治体改善マネジメント研究会」は各自自治体で改善活動を推進している職員が自主的に集まって発足した。その活動の中心に「事例研究会」がある。各自が実践している情報を持ち寄り、どうすればもっとうまく活動できるのかを1年かけて研究していく。今年で4年目、第3期メンバーを迎えて全22人となった。

そこでこの夏、長野県須坂市で合同合宿を行うことにした。期を越えて集まるのは初めて。金曜午後第3期の会合を行った後、1期と2期のメンバーが夕方の懇親会から合流する流れだ。今回はこの合宿について紹介したい。

全国各地から15人の有志が参集し、懇親会には三木正夫市長も輪に入って、市政への思いを熱く語ってくれた。各地の銘酒を酌み交わし、互いに打ち解けて、改善談義は日付変更線を越えるまで続いていた。

事例報告から見えてきたもの

事例研究の第1期は、三重県、横浜市、福岡市、東京都中野区、さいたま市、埼玉県所沢市のメンバーで、いち早く分権改革に取り組んできた自治体が多かった。約20年の行政経

営の経緯を辿って見たところ、首長が交替して改革の方向性が変わると改善活動の進め方も大きく影響を受けることがわかった。この成果を昨年『地方が元気になる 自治体経営を変える改善運動』にまとめた。

第2期のメンバーは、岩手県金ケ崎町、東京都立川市、東京都日野市、



その研究成果の一端を本連載で順次発信しているが、合宿ではより掘り下げて報告した。自治体によって様々だが、連載第1回に記した目的レベルで見分けると、取組みの特徴をとらえやすくなる。

改善診断ツールを提案

第8回

よりよい役所づくりへ ～第1期から第3期の合同合宿

自治体改善マネジメント研究会(*)代表

元吉由紀子 株式会社スコラ・コンサルト 行政経営デザイナー

第3期は、神戸市、川崎市、大阪府大東市、奈良県生駒市、静岡県富士市、長野県須坂市、鹿児島県鹿屋市のメンバー。うち3市は、管理部門と事業部門の職員がペアで参加している。川崎市も第2期とは違う部署からの参加だ。トップダウンで進める改革に基づ

く取組みも事務局主導のままでは根付かない。事業を担う職場で職員の自主的なボトムアップの改善取組みを連動してこそ、面的な広がり浸透を図ることができる。改善活動は自治体の中でまさに「運動」として展開され始めているようだ。

しかし、首長交替後の幾年かは、首長の思いと既存の方針や計画との間にズレがある。「よりよくするにはどういうことか」、価値観の転換をきちんとしないまま改善を進めると混乱を招く危険性がある。第3期では、新しい首長のもとでの組織運営課題が浮かび上がった。

そんな行政組織特有の問題に対して、昨年「診断部会」を立ち上げたメンバーが、開発中の「自治体改善マネジメント診断」を提案した。改善活動をその目的レベルに分けてとらえ、PDCAサイクルの運営状態を自己診断するチェックリストである。まずは研究会メンバーと所属自治体で試行してみることになった。

また、行政経営の段階に応じて効果的かつ効率的な改善活動にしておくために、今後首長や経営幹部にも研究会の趣旨に賛同してスポンサー会員となってもらえるよう会則を改定。この合宿では、新しい交流と動きへの結束を築くことができた。

*自治体で長年改善運動を推進してきた熱き職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で2013年に設立。自治体における改善運動が行政経営の目的や状況に応じて効果的かつ効率的に進められるよう、実践事例情報を収集、分析、ナレッジ化して情報発信、実践活用することを目的として活動している。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。共著に「地方が元気になる 自治体経営を変える改善運動」(東洋経済新報社)。